

妊娠中の乳がん

不安な気持ちを
抱えているあなたへ



日本乳癌学会班研究（妊娠期乳がんに関する包括的診療
体制構築に向けた研究2017年度～2018年度）研究班作成

不安な気持ちを 抱えているあなたへ

妊娠中に乳がんが診断され、大きな不安を抱え、
どうしたら良いか悩まれていることと思います。

本冊子は、妊娠中に乳がんが分かったあなたに、
妊娠期乳がんについて知っておいてほしいこと、
考えていただきたいことをまとめました。

不安な中にあるあなたに、この冊子が力となることを願っています。



こんな不安はありませんか？

妊娠による
がんへの影響

治療による
おなかの赤ちゃん
への影響

化学療法

乳がん

出産後のこと

出産

手術

がん治療による
授乳への影響

治療による
副作用

今のところ、妊娠そのものは
乳がんに影響しないと言われています。
どのような治療が必要かは、
乳がんの広がり（臨床病期）や性質によります。

妊娠中の乳がんの診断

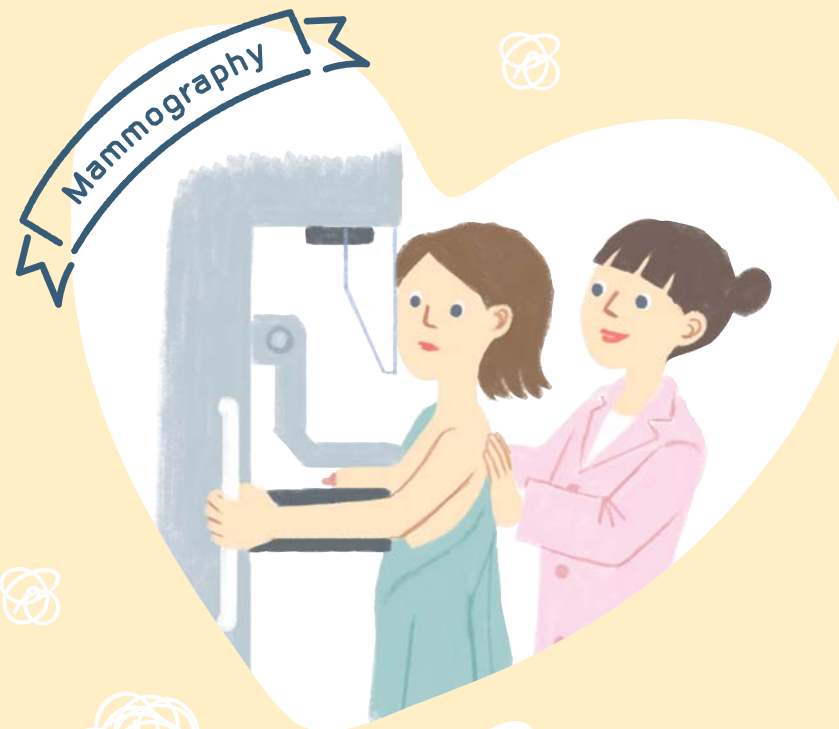
乳がんが疑われたとき、多くの場合、超音波で観察しながらシコリの一部を採取する細胞診・組織診断（針生検）が必要になります。

局所麻酔薬を使用して細胞診・組織診断（針生検）を行うことはおなかの赤ちゃんへの影響はなく、妊娠時期に関わらず実施できます。

乳がんと診断された場合、

乳がんの範囲や広がり（臨床病期）を把握するための検査を行ないます。

おなかの赤ちゃんへの悪影響が知られている検査は避け、妊娠中でも可能な検査で診断します。



妊娠中に不必要な放射線の被曝（ひばく）は避けるべきですが、診断に必要な場合はマンモグラフィを行います。

1回の撮影での被曝線量はおなかの赤ちゃんに影響を与えている線量（しきい値）からすると1/100より低く、腹部を遮蔽するとさらに低値となります。

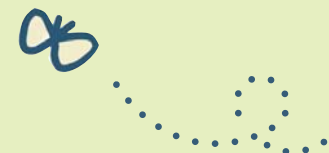


妊娠中の乳がんの治療

乳がんの治療はがんの広がり（臨床病期）や性質によって必要な治療が異なります。

また、妊娠週数を考慮して行う治療、妊娠中は避けるべき治療があります。

妊娠中に手術や化学療法（妊娠中期以降）を行なったことによるお子さまへの明らかな影響があるという報告はなく、治療はおなかの赤ちゃんの状態をみながら慎重に行われます。長期的なお子さまへの影響に関してはまだ報告が少なく、今後もフォローが必要です。



おなかの赤ちゃんへの影響を最小限に、そして乳がんの治療と両立できるようにあなたの場合の最善の治療方針を話し合ってください。



あなたが知っておく 必要のあること

あなたの乳がんについて

- * 乳がんの広がり（臨床病期）
- * 乳がんの性質（抗がん剤などの薬物治療が必要か）
- * 妊娠をしていない場合の必要と考えられる治療内容
- * 妊娠をしている場合に考えられる治療内容

現在の妊娠について

- * 妊娠週数・赤ちゃんの状態
- * 妊娠出産そのもののリスクについて（年齢、高血圧、糖尿病など）
- * 産後の育児が可能かどうか（がん治療中の育児支援の有無など）

ご家族の考え

- * 赤ちゃんのお父さん
- * あなた方のご両親
- * 赤ちゃんのきょうだい

今後の妊娠・出産の可能性について

- * あなたの年齢・現在の卵巣の機能
- * 予定される治療内容
- * 治療後に予想される卵巣の機能

あなたの気持ち

あなたの気持ちを相談できる人はいますか。
いま、一番大切にしたいことは何ですか。



妊娠の継続を 迷われているあなたへ

妊娠中に乳がんと診断され、妊娠の継続を迷われている方がいらっしゃるかもしれません。

妊娠による乳がんへの影響が心配だと思いますが、今のところ、妊娠そのものは乳がんの予後と関連しないと言われています。

必要な治療はがんの性質や広がり（臨床病期）によって決まりますが、妊娠週数によっては避けるべき治療があります。妊娠していないときとほぼ同等の治療効果が得られるよう、治療の内容やスケジュールを検討していきます。



限られた時間の中で様々な選択をしなければなりませんが、ご家族と相談しながらあなた自身が納得できる選択をすることが最も大切です。

迷いや悩みを生じることは自然なことです。

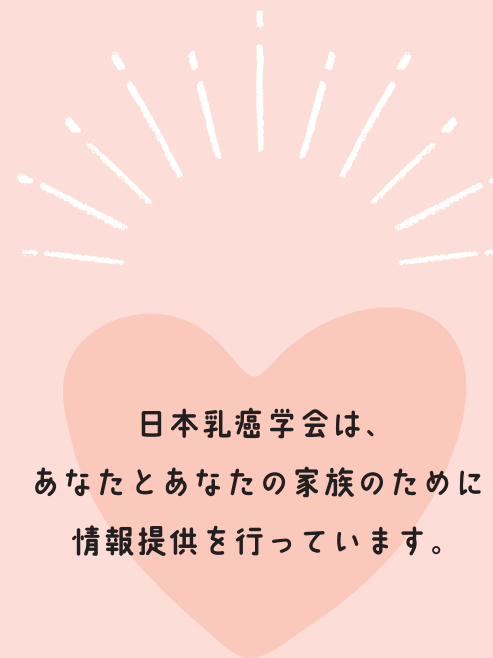
私たちは選択をする過程で迷っているあなたをサポート出来ます。

ひとりで悩まず、早い段階で産婦人科医師や乳がん治療医、助産師、臨床心理士など周りの医療従事者に遠慮なくご相談ください。

最終的にどのような選択をされても、
あなたの治療を全力でサポートしていきます。

あなたを支える医療チーム

あなたの医療チームには、あなたとあなたの家族を支えるために、がん治療医（乳腺外科医・腫瘍内科医）・産婦人科医・小児科医・看護師・助産師・精神腫瘍医・臨床心理士など様々な職種がいます。まず相談してみてください。



日本乳癌学会は、
あなたとあなたの家族のために
情報提供を行っています。

妊娠期乳がんに関するより詳しい情報は以下のサイトで提供しています。

乳癌学会ホームページ
<http://jbcs.gr.jp/forcitizen/>

日本乳癌学会患者さんのための乳癌診療ガイドライン
<http://jbcs.gr.jp/guidline/p2016/guidline/g9/q66/>